1998年8月24日

北海道知事　堀　達也　様

（社）北海道自然保護協会
会長　望月　浩二

オオワシなど野生鳥獣の鉛中毒の発生防止対策の強化を求める要望書

最近、エゾシカ猟の規制緩和政策の進行とともに、そこで使用された鉛弾により、国の天然記念物オオワシ・オジロワシの鉛中毒死が大量に発生していることが明らかになりました。このことは、日本の野生鳥獣保護にとって憂慮すべき問題であるばかりでなく、ラムサール条約や日本・ロシア間の渡り鳥保護条約に背くものであり、日本の国際的信用を失いかねない重大な問題であります。これら希少鳥獣を絶滅の危機にさらすことは、ブラジル地球サミットのリオ宣言にある「種の多様性の保存」にも反することになります。

また銃猟用の鉛散弾に起因して、国の天然記念物マガンをはじめハクチョウやカモ類が鉛中毒死する事故も、かなり以前から発生し、現在も後を絶たない実情にあります。

したがって野生鳥獣の鉛中毒の発生防止のため、下記事項について検討し、早急に対策を強化されるよう、緊急に要望いたします。

記

1　鉛弾の使用を早急に禁止すること

鉛弾の使用は、目的とする狩猟鳥獣以外の、ワシ・タカ類、ガン・カモ類、哺乳類の生態にも、間接的な悪影響を与えることが明らかになっているので、銃猟用の鉛弾は、ライフル弾、散弾ともに使用禁止とすること。

2　エゾシカなどの死体回収の徹底を図ること

一般的に狩猟者は、有用な肉やトロフィーは持ち帰るが、内蔵など不要な部分は現地に残すのが現実である。また近くに加工施設がある場合でも、被弾部や内蔵は商品価値が低いので捨て去られるのが実態である。しかし、そのことがオオワシ・オジロワシの鉛中毒発生の原因となっているので、狩猟者に死体回収を徹底させること。

3　エゾシカなどの死体の埋設処分をさせないこと

エゾシカなどの死体の不要部分を現地に捨てる代わりに、埋設処分を奨励する傾向があるというが、狩猟期は積雪や土壌凍結のため土中埋設が困難で、ただ雪中に埋めるだけの結果をまねく場合が多い。またそのことは、ヒグマやキタキツネなどに「餌づけ」することに連なり、別な新たな問題を派生させることとなる。したがって死体の埋設処分をさせないこと。

4　狩猟期間中のパトロールを充実・強化すること

狩猟に対する監視体制を強化し、とくにエゾシカ猟では、バッグリミット（1人1日当たりの制限）が遵守されているか、死体のすべての部分が車に積まれているか、などを厳重にチェックできるように充実すること。

5　エゾシカの管理計画の見直しを行うこと

オオワシ・オジロワシの鉛中毒発生は、エゾシカの管理計画を立案する段階では予測していなかったことである。しかし現実に、このような事態が発生したのであるから、管理計画そのものの見直しを行うべきこと。